

さいたさいた

はにゆうしりつとしょかん

「おやゆびひめ」

アンデルセン/作 岩波書店 E/オ

花から生まれたおやゆびひめは、ひきがえるにさらわれてしまい、結婚させられることに。泣いているおやゆびひめを魚が助けてくれますが…。



「うまやのそばのなたね」

新美 南吉/作 新樹社 E/ウ

うまやの窓の外の菜種のつぼみたちは、春が近づくとだんだんふくらんでいき…。



「木のまつり」

新美 南吉/作 新樹社 E/キ

原っぱの木に白い花がいっぱい咲いたら、チョウもホタルも集まってくる。賑やかなおまつりが始まります！あたらしい新美南吉と出あえる、美しくも楽しいメルヘンの絵本。



「ティモシーとサラはなやさんからのてがみ」

芭蕉 みどり/作 ポプラ社 E/テ

お母さんの友だちのデイジーさんが花屋さんを開店しました。ティモシーとサラは花屋さんをお手伝いしながら、お母さんと一緒にお客さんを待っています…。



「ふたつの花」

いもと ようこ/作 岩崎書店 E/フ

雨の日も風の日も、どんなときでもお互いを守り合い、愛し続けるふたつの花…。男女だけでなく、親子、きょうだい、友人、あらゆる人たちに重ねられる愛の物語。



「はなとひみつ」

星 新一/作 フレーベル館 E/ハ

「草や木の世話をするモグラがいたらおもしろいだろうな」女の子が思いつきで描いた絵がめぐり巡って、ある国が作った秘密の研究所に舞い込み…。



「さくらがさくと」

とうごう なりさ/さく 福音館書店 E/サ

駅に向かう人々が足早に通り過ぎる川沿いの並木道。しかし、今日の朝はいつもとちよつとちがう。美しく咲いた桜並木を見あげ、人々は思わず足を止め…。



「ほわほわさくら」

ひがし なおこ/さく くもん出版 E/ホ/ハジメテ

春が近づくと、誰もが待ち遠しくなる“桜”。その桜の花びらが、子どもの手のひらに舞い落ちてきました。風に吹かれた花びらを子どもが追いかけていきます。



「おはなみバス」

すとう あさえ/ぶん ほるぷ出版 E/ハ

おはなみバスが走ります。ぶつぶー。りすきん、うさぎさん、たぬきさんを乗せてさくらやまにしゅっぱつ出発。みんなは、つくってきたおはなみ弁当を見せっこして…。



「さくららら」

升井 純子/文 アリス館 E/サ

わたしがさく日は、わたしがきめる-。“日本で一番遅く咲く”といわれる、北海道北部の豪雪地・幌加内町朱鞠内に生きる一本のチシマザクラが主人公の写真絵本。



「もういいかい」

中野 真典/作 BL出版 E/モ

ちいさな女の子がふたり、神社の境内でかくれんぼをしています。「もう、いいかい?」「まあだだよー」…。



「おはなみくまちゃん」

シャーリー パレントー/ぶん 岩崎書店 E/オ

桜が満開になりました。くまちゃんたちはお花見をすることに。バスケットを準備して、太鼓を叩き、凧を持って、お花見の始まりです!



「おばけの花見」

内田 麟太郎/作 岩崎書店 E/オ

今日は「おばけ長屋」のお花見です。あねさんのつまびく三味線にうっとり、みんなは浮かれて踊りだします。ところが急に空が曇ってきて…。



「きょうはたんじょうび」

中川 ひろたか/文 童心社 E/キ

こどもたちと園長先生は、毎月、桜の木と写真を撮りました。1年の間に色々なことがあったけど、誕生日は何回あった?

